

○国会の論戦始まる

麻生内閣が発足しました。麻生総理の所信表明演説では、「野党の代表質問か!？」と、ヤジが飛ぶほどに民主党批判や民主党への質問攻めを繰り返して、解散に向けての闘志をむき出しにしていました。

実質的には、選挙管理内閣です。予算委員会まではやって、経済対策に目途がつけば、直ちに衆議院を解散して、国民が選択した内閣を作る。途中で政権を投げ出すような無責任きわまることを二度と起こさないようにするには、自民党が自分たちだけで決めるのではなく、選挙で国民が政権を選択することでなければならないのです。国民の支持があれば、政権は続くということです。国民の意思も、ここで解散総選挙です。

○アメリカのギャンブル金融崩壊

アメリカのポールソン財務長官が、サブプライムローンなどの不良債権を国が直接買い取るための資金、75兆円の緊急予算を議会に要請し、下院が否決。マーケットは大混乱。世界的な金融危機が目前に迫っています。

アメリカ議会もこの事態に動揺していますから、当面の手立てはなんとしても繕うことになるとおもいます。しかし、本当の危機と世界の金融秩序の地殻変動はこれからです。

リーマン・ブラザーズの救済はしなかったものの、ベア・スターンズ、AIG を政府管轄にするための11兆円を超える融資枠の創設や政府系住宅金融のファニーメイやフレディマックに対する保証など、全てを合わせれば、政府の救済資金は大変な規模になってきます。アメリカがイラクとアフガニスタンに費やした戦争勃発以来の戦費 90兆円を超え、100兆円台になることは、確かです。

さらに、最近アメリカを支えてきたウォール街が実質なくなってしまうということもはっきりしてきました。リーマンやメリルだけでなく、モルガン・スタンレーやゴールドマン・サックスも株が投げ売りされ、投資銀行から一般銀行持ち株会社になりました。アメリカのギャンブル金融の終焉です。

ここで私たちは、2つのことを見極めなければならぬでしょう。巨額の公的資金を投げ出した上、イラク戦費の重圧を抱えて、景気は最悪の状況に入っていくアメリカ。世界の基軸通貨「ドル」が、これからも基軸通貨たりえるのか。日本は、いずれ来るだろう通貨の多極化の流れに対して、「円」をどう活かすかという戦略を描く時です。さらに、アメリカ型ギャンブル金融をどう評価するのか。私は、間違いを正して、新しい金融秩序とビジネスモデルを、日本とヨーロッパで作ることだと思います。基本は、実体経済を発展させるための資源再配分が、金融の全て。それを逸脱して、魔法のように無から有のマネーを生み出す手法は、この際、禁じ手とすべきです。日本は、今、内向きの議論ばかり。早く選挙でけじめをつけて、世界の新秩序を作っていくための外に向かっていく議論をしたいものです。

○厳しい地元選挙区情勢

地元の選挙区情勢は、私にとって、とても厳しいものだ。危機感を募らせています。「相手方が何回も応援してくれと言ってくる。私が熱い中川支持者だと知っていて、しつこく言ってくる。」「お嫁さんがシンクローの銀メダリストだと言って、私にも集会に参加するように誘いが来た。興味津々。ちょっとだけ、行ってきた。」など、活発な動きに翻弄される地域が出てきました。

自民党が行き詰ったら、国民が選挙で選ぶ次の選択肢が必ず必要。真の民主主義と、国家の再生は、国民の手による政権交代があって、初めて実現できる。その思いで、やってきました。この間、4回の選挙を経ながら、政権がとれず、ずっと野党のままが続きました。それでも、皆さんは、この国の未来を思い、私たちの可能性を信じて、ずっと、力強く私に支持を下さり、育てていただいたこと。感謝をこめて、今、かみしめています。自民党は過去にこだわり現在に立ち往生している。だから、私たち民主党が未来を語り、現在を切り開いていきます。これが、今回の選挙の原点だと私は、思っています。私も参画した具体的なマニフェストが近く発表されます。政権交代!どうか、私に、力を下さい。